



学校だより

入善町立飯野小学校

令和3年11月26日

もの思う夜長の11月 ～ 「面白くない」 ふと思ったときには ～

「ほぼ皆既月食」が最近ありました。「ほぼ皆既月食」という言い回しが不思議です。ちなみに、今回と同程度かそれ以上に深い部分月食（これを「ほぼ皆既月食」と言っています）のうち、日本の一部地域で食の最大が観測できた部分月食は1932年9月15日の部分月食以来89年ぶりだそうです。



また、日本全国で食の最大が観測できた部分月食としては1881年12月6日の部分月食以来実に140年ぶりとのこと。なんと飯野小学校の前身ができた明治の頃の話です。次に今回よりも深い部分月食が日本で観測できるのは、65年後の2086年11月21日の部分月食になるようです。

皆既月食であれば、今年は、5月26日に見えましたが、次に見ることができるのは来年の11月8日です。皆既月食よりも「ほぼ皆既月食」が珍しいということが不思議に思えます。夜空の星や月は身近に見えるものですが、日頃私たちが使っている単位では想像が付きにくい途方もないスケールです。ちなみに私たちの地球から月までは、38万km、太陽までは1億5000万km、一番近い星（恒星）までは、4.3光年です。天体は、実に興味深いと思いませんか。

このようにロマンあふれる夜空の話ですが、理科は苦手と敬遠される方もいるでしょう。星座占いとか、宇宙人はいるのかとか、宇宙船で水をこぼしたらどうなるのかなど、夜空に関する面白い話はたくさんあると思われます。しかし、勉強と捉えた瞬間に面白くなくなります。読書好きな人、オセロや将棋などが好きな人が楽しんでいる内容は、まさに国語や算数で学んだ大事なことを知っているからこそ楽しめるものですが、教科の名前でいろいろなことを考えると勉強のイメージが強くて面白くなくなることが多いような気がします。

つまり、ある事象において面白いか面白くないかは、物事に対する個々の考え方次第であるといえそうです。実際、日常生活の出来事を思い起こして面白いか面白くないかを判断しようとした場合、

考え方次第なところがどれだけ多いか感じることができると思います。

そもそも楽しいことや面白いことは、黙って待っていると自然と湧いてくるようなものではありません。どこかで知らず知らずのうちにがんばって探したり見付けたりしているものなのです。子供たちには難しいのですが、多くの飯野っ子が、考え方ひとつで違う印象をもてることの面白さを感じ、自分から積極的に楽しいことや面白いことを探しにいてほしいと願っています。

さて、本格的に冷え込む季節となりました。冬の到来を、続いてやってくる春を想ってワクワクできる時期と捉え、笑顔をベースに過ごしていきたい、そう思う今日この頃です。



お待たせしました！教室に入っの参観 学校一日公開（4、5限）11月12日(金)

新型コロナウイルスの感染状況が落ち着きを見せ始めたのは10月下旬。学校一日公開は、時間こそ4、5限に限らせていただきましたが、教室に入っの参観が可能となりました。久しぶりに保護者が近くでの学習参観に、子供たちも担任もどきどきわくわくした様子でした。



やっぱり教室の中でじっくり参観がいいです。



プログラミング学習、実践中。



あさがお級では、ミニコンサートを開催。

2年ぶりの通常学校訪問研修 教育活動に多くの助言いただく 11月18日(木)

昨年度は実施できなかった訪問研修、今年は予定通り行うことができました。東部教育事務所の指導主事や町の教育センターの所長代理の先生方が来られ、授業の参観や個別の懇談会等を通して、我々教職員にたくさんの助言をいただきました。教えていただいたことを基に、学校生活を見直し、よりよい学校づくりに努めていきたいと思ひます。



落ち葉掃きのボランティア 11月17日(水)



環境委員会の呼びかけで、朝の落ち葉掃きボランティアが始まりました。校庭には、落葉樹が数多く植えられており、秋のこの季節には、たくさんの落ち葉が舞い散ります。環境委員会の高学年だけでなく、低・中学年からも多数ボランティアへの協力がありました。雨天の日ではできませんが、異学年交流も兼ねて、学校をよくするボランティア活動が広まればよいと思ひます。



ほっとタイム



*先生方の、ほっとできるようなエピソードや一言を紹介します。

「読書三昧の生活」

大倉 美幸

「この子どこか具合が悪いんじゃない？」と周囲が心配するほど、じっと座り込んで絵本ばかり見ている子供だったそうです。長じて中高生となり、テストが近くなると無性に本が読みたくなって困りました。当時の夢は社会人になったら思いっきり本を読むことでしたが、日々仕事や雑事に追われてそれも叶わず。退職後こそはと思ひきや、老眼が進んで目が疲れやすく怪しい雲行きに。それでも、目薬片手に読書三昧の生活をと思ひています。

「冬の楽しみ」

大越 陽平

小学校時代のことで思い出すのは、スキー遊びです。スキー学習会とは別に、学校にあったノルディックスキーで川原や山で滑っていました。その頃は、長野五輪の影響もあり、大きな石や段差を利用したスモールヒル（自称）で、ジャンプからのテレマークに挑戦していました。正直、事故が起こらなかったことの方が不思議なぐらい危険な遊びでした。子供の頃の「楽しい」は、大人になった今でも覚えています。安全への意識は絶対に忘れず、たくさんの楽しい機会をつくっていきなと思ひます。